

「エシカル消費自主宣言」 ～生徒の活動から地域に広がるエシカル消費～

徳島県立吉野川高等学校（徳島県）

徳島県立吉野川高校は、徳島県立^{あわ}阿波農業高等学校と徳島県立^{かもじま}鴨島商業高等学校が統合し、平成24（2012）年に開校した県内唯一の農業系と商業系の学科を併設した学校です。徳島県では「エシカル消費¹」の推進に力を入れており、全ての県立高校に、エシカル消費を研究・実践する組織であるエシカルクラブが設立されています。本校はそのリーディングスクールと位置付けられており、平成29（2017）年に「エシカル消費自主宣言」を行いました。全ての授業でエシカルの要素を取り入れており、例えば英語ではエシカルに関連する文献を読んだり、数学ではエシカルに関わる統計を用いて分析を行ったりしています。また、エシカルクラブでは、食ビジネス科を中心に、生徒会、農業クラブ、家庭クラブ、部活動、各種委員会と連携し、校内にとどまらず地域への貢献を含め、「食」を起点とした多様な活動を展開しています。

食ビジネス科の生徒が運営している校内のスクールカフェは、農業科学科の生徒や地域の農家が生産した農産物の規格外品等を学内で加工したスイーツやジャム、エシカルコーヒーなどを提供しています。提供の際には、顧客に対し、事前にストローやミルク等が必要であるかの確認や、食べきれぬ量にするなど、必要量のみの提供となるよう心掛けるとともに、地域住民を含む来店者²に対し、生産者の情報や規格外品を利用していることなどを伝え、地産地消や食品ロスについて考えてもらうきっかけも提供しています。また、提供している商品や原材料の情報、取得している認証、関連するSDGsの目標³等を記載した「本日のSDGs」というチラシを作成し、周知を行っています。

本校では、校内にある農産物直売所「アグリ吉野川」で、生産した農産物や加工品等の販売を行ってきました。一方、地域の商店の閉店が相次ぎ、「シャッター商店街」となっていたことから、生徒が自ら自治体や町内会にかけあい、空き店舗を借りて農産物直売所「鴨島駅前にぎわいづくり」を開設しました。ここでは、レジ袋削減に取り組んでおり、家庭で不要になった紙袋を回収して、レジでエコバックを持参していない来店者に渡し、次回もこの紙袋を持ってきてもらうように促す「紙バックカムバック大作戦」を展開しています。この活動の影響もあり、エコバックを持参する来店者が増えました。

これらの活動は生徒が自ら考えて取り組んでいます。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で活動が一部縮小されていますが、今後も農と食と地域活性化を絡めた様々な取組を行っていきたいと考えています。



スクールカフェ



「紙バックカムバック大作戦」

1 エシカル消費については、P24参照

2 令和4（2022）年3月現在、新型コロナウイルス感染症の感染予防の観点から地域住民の来店は中断している。

3 エシカル消費は、SDGsの17ある目標のうち、「目標12. 持続可能な生産消費形態を確保する」と特に関連している。